

1968年びわ湖で発生した大型コアユについて

山村金之助

1968年4月中旬に、従来びわ湖で見られなかった大型コアユが発生し、5月中旬頃まで継続して漁獲されたが、5月下旬には大型コアユの漁獲は終息した模様である。びわ村南浜の故老の話によると、ずっと以前にもこのようなことが一度あったと云う言伝えがあるが、実証的な記録は何も残っていない。

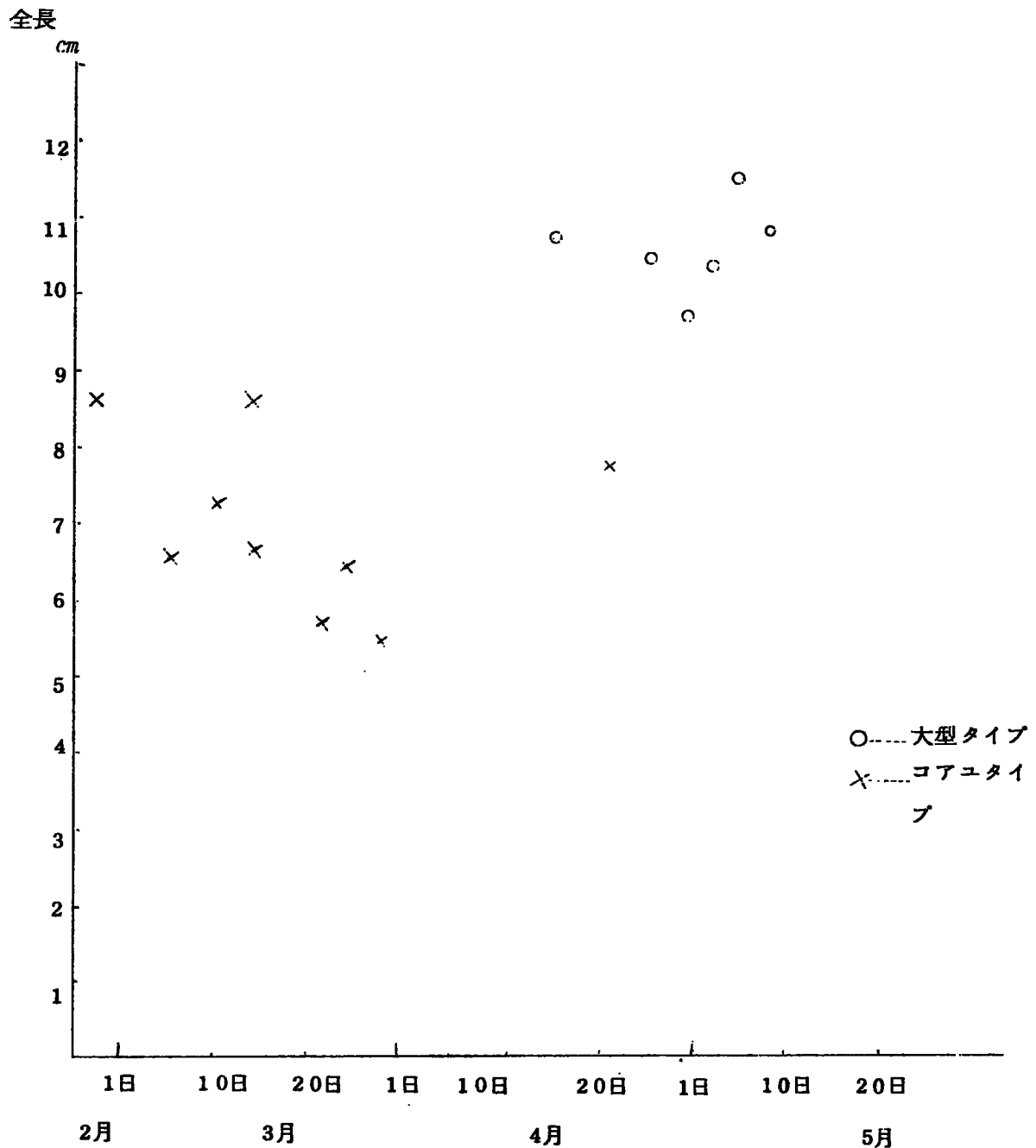
このような珍しい現象を記録に止めておくことは、是非とも必要なことと考えたので、主として魚体測定資料を中心として、手許にある記録を集めて報告する。

大型コアユの発生時期と場所

1968年の移殖用アユ苗の採捕は2月下旬に始まって、6月下旬に終了した。此の期間中に採集したコアユの魚体測定結果は、2月下旬から5月上旬までの間に17回分あるが、これを普通のコアユタイプのものと、大型タイプのもの2種類に分類して表示すると第1表および第1図のとおりである。

第1表 1968年2～5月のコアユ魚体測定結果

	漁獲月日	漁獲場所	採捕漁具	測定尾数	全 長	体 長	体 重	肥満度
コ ア ユ タ イ プ	2月29日	海 津	追さで網	9	8.56±0.54	7.48	4.43±0.79	1.06
	3 6	北船木	えり	50	6.51±0.65	5.65	1.49±0.19	0.83
	" 12	知内	地曳網	50	7.22±1.31	6.25	2.51±1.62	1.03
	" 12	北小松	追さで網	27	6.96±0.87	6.00	1.87±0.79	0.87
	" 14	大浦	"	20	6.71±0.91	5.81	1.83±0.98	0.99
	" 14	知内	地曳網	25	8.52±0.98	7.39	4.22±1.32	1.05
	" 23	"	"	50	5.79±1.02	5.03	1.08±0.83	0.85
	" 24	"	"	30	5.39±0.88	4.69	0.82±0.74	0.79
	" 26	"	"	40	6.53±1.22	5.74	1.91±1.34	1.01
	" 31	"	"	50	5.42±0.82	4.73	0.86±0.55	0.81
4 22	尾上	追さで網	50	7.94±0.28	6.82	3.56±0.43	1.12	
大 型 タ イ プ	4 15	尾上	"	25	10.71±1.56	9.35	11.66±4.88	1.43
	" 25	安曇川	やな	20	10.49±1.12	9.05	8.90±3.56	1.20
	5 1	姉川	"	25	9.70±0.69	8.41	7.54±1.17	1.27
	" 2	北船木	えり	5	10.58±0.46	9.15	9.40±1.01	1.23
	" 5	安曇川	やな	50	11.46±0.96	9.95	11.50±2.97	1.17
	" 7	"	"	25	10.98±0.72	9.54	11.28±2.57	1.30



第1図 大型タイプの出現時期

大型タイプのコアユが、最初に出現したのは4月15日尾上の追さで網で漁獲されたアユが初めてである。このような大型魚が出現する徴候は、42年12月下旬のヒウオ棲息状況調査で全長7cm台のコアユが、南浜沖、塩津湾、今津沖で採集されたこと、43年2月29日海津の追さで網のコアユの平均全長8.56cm最大魚の全長9.14cmと大きかったこと、3月14日の知内の地曳網漁獲コアユの平均全長8.52cm、最大魚の全長9.50cmと大きかったこと等に現われていたのであるが、4月中旬になって急に平均全長10.71cmにおよぶ大型コアユが出現するとは想像もつかなか

った。その後も大型魚は安曇川、姉川、北船木のえりで継続して漁獲され、試料採集が出来なかったが、今津の地曳網でも4月24日頃から大型コアユが獲れ始め、5月7日頃まで続いたとのことである。

5月17日の巡回調査では、南浜漁協ではモロコ小糸網で大型コアユが連日約200kg漁獲されており、彦根市磯田漁協でも、小糸漁業者1人1日約15kgの大型コアユの水揚げがあるが、尾上では魚入、追さで網とも既に普通のコアユタイプになったとの聞き込みであった。

考 察

阿部によると、びわ湖産大アユに「タガワモドリ」（田川戻り）と云う種類があり、2月頃に体長9cm内外、4月末には9~10.5cmとなり、常に硅藻を飽食して腹部が膨大している。最初は水田のような浅い所もいとわず流勢があれば入るけれども、5、6月頃には漸次河川上流に向って移行する。その頃は体長12cm大のものが最も多いとある。本年度出現した大型コアユはこのタガワモドリの記述に類似しているが、当時の漁獲は河川上流産を含めて年産約20トンとあり、湖岸のえりおよび河川下流の上り築による漁獲は僅かであったと推定される。一方今年の4月中旬から5月中旬までの間のアユ苗出荷量が約60トンであるので、此の間のコアユの漁獲は蓄養中の死亡を入れるとより大きく、また南浜、磯田で見られたように小糸網による漁獲もかなり多かったので、大型コアユの漁獲量はアユ苗出荷量の60トンを下るまいと考えられる。阿部の記述にある大正末期と比較して、今年の大型コアユの量は問題なく多いので異常現象であることは間違いないであろう。

5月9日アユ苗漁連で聴取調査したところ、県下全般どこでも魚体が大きく、需要者側では重量で購入するので、アユの尾数が不足して困ると云う苦情が出て弱っているとのことであった。

このように大型コアユが出来た原因は、第1表で見られるとおり肥満度が1.17~1.43と著しく高いので、びわ湖の餌料条件が良かったことが第1の原因と考えられよう。

文 献

阿部 圭：実地応用養魚の研究 鮎（1933）